

## 第25期第4回常任理事会議事録

日時 平成元年1月24日(火) 13:30~17:00

場所 気象庁予報部会議室

出席者 浅井, 岡村, 竹内, 河村, 荒川, 能登, 古賀,  
村松, 木田, 村上, 安田

### 議題

#### A. 報告事項

1. 第25期第3回常任理事会議事録は一部修正の上承認された。
2. 各委員会報告

#### 「庶務」

資料に基づき報告があった。主なものは次の通り。

- (1) 平成元年2月1-2日 京都大学防災研究所研究発表講演会
- (2) 2月24-27日 第3回エアロゾル国際会議
- (3) 1月9日 堀内剛二氏(堀内基金奨励賞)死亡  
1月12日 理事長葬儀参列
- (4) 2月2-3日 第9回宇宙ステーション利用計画ワークショップ

#### 「気象集誌」

気象集誌の印刷・出版方式変更および表紙のレイアウトなどについて評議員会に報告するためその要旨の説明があった。

#### 「天気」

「天気」1月号の目次, 2月, 3月号掲載予定の論文など資料により説明があった。

#### 「講演企画」

秋季大会について沖縄支部の取り組み状況の説明があった。

#### 「会計」

- (1) 12月分の収支状況について資料に基づいて報告があった。
- (2) 平成元年度の会費は大体例年通りのペースで順調に入金している。
- (3) 会費納入時に国際学術交流基金に21万5千2百円(12月末日現在)の寄付があった。
- (4) AGUの分担金の支出について国際学術交流委員会が積立金として算入して対処するか検討することになった。

#### 「その他」

##### 竹内常任理事:

日本国際賞の受賞候補者の推薦依頼を国際科学技術財団から依頼を受けている。受賞対象分野の一つは地球科学となっている。気象分野から適当と思われる人を推薦したい。

#### B. 審議事項

##### 1. 新規加入会員の承認

新規加入, 個人会員17名, 退会61名が承認された。

##### 2. 平成元年度予算案について

第2次予算案が示され審議が行われた。

##### 主な追加案

- ① 気象集誌に毎号カラーページを入れることとし予算建てをしたい。予算額は大体60万円。
- ② OHPを明年度から3年計画で更新したい。
- ③ 追加する事項は2月の理事会に間に合うように提出する。

##### 3. 正野賞について

(1) 「Memorial lecture」と「賞」の二つの案が並立して結論に至らなかった。総合計画担当理事がさらに検討して, 2月の常任理事会で総会に提出する案を決める事とした。

(2) 「天気」3月号に総会に書面参加の委任上を入れることとした。

##### 4. 「連絡会」について

南極気象関係の若手研究者有志が南極委員会のような活動組織を作りたいと申し入れのあった件について第25期第3回常任理事会で審議を行っていたが, 木田常任理事から総合計画担当理事として検討した名称と組織上の位置づけなどについて資料により説明があった。

##### 審議の結果,

- (1) 総合計画担当理事提案通り名称は「……研究連絡会」とすることとなった。
- (2) 組織の中の位置づけは, 理事会との接点として既存の委員会と同じ並びの「研究連絡会委員会」を新設する。ただし, 暫定措置として当面は総合計画担当理事が担当する。
- (3) 研究連絡会の主な活動

- 1) 講演会・研究発表会などを企画・運営する。
  - 2) 情報交換の世話をする。
5. 評議員会について  
正野賞についてご意見を頂くこととしたほか、IAMAP, AGU について最近の情勢や学会の全般

的運営状況を理事長が説明することとした。  
また、第25期第1回の評議員会なので各常任理事から自己紹介と担当について最近の情勢および今後の新しい企画などを説明することとした。

## IFHP/CIB/WMO International Conference on Urban Climate, Planning and Building 開催のお知らせ

日時：1989年11月6日(月)～11月11日(土)

場所：国立京都国際会館，京大会館

主催：IFHP/CIB/WMO 国際会議「都市気候・計画・建築」組織委員会（委員長 京都大学教授・松浦邦男）・京都大学

共催：IFHP, CIB, WMO, IGU, 日本建築学会, 日本気象学会, 日本地理学会

### Scope and Topics

As problems related to Urban and Building Climatology are diverse in different climatic regions of the world, attention should be paid to each climatic region;

- Cold climate (arctic, subarctic)
- Temperate climates (mid-latitude)
- Hot dry climate
- Hot wet climate.

In addition, the scope and topics for the conference shall be focused on the following;

- 1) Wind structure in urban areas
- 2) Solar radiation in urban areas and its impacts on building design

- 3) Effects of vegetation on urban climate and buildings
- 4) Urban climate and air pollution
- 5) Impacts of urban climate on human health
- 6) Disasters caused by extreme climatic events in urban areas
- 7) Urban climate and energy management
- 8) Urban climate and building materials
- 9) Urban climate and building design
- 10) Urban climate and urban planning and layout
- 11) Prediction of urban climate
- 12) Needs for future research in urban and building climatology.

応募論文の締切：A 4版1頁英文30行以内の梗概を5月31日まで

連絡責任者：〒606 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部建築学教室

中村 泰人

電話 (075) 753-5739 (直通)

ファックス (075) 753-5748 (教室)

編集後記：“Bulletin of the American Meteorological Society”の1月号に“Chaos, Strange Attractors and Weather”という解説文が載っています。

これまで Navier-Stokes 方程式を唯一の教典として、ひたすら純粋な神の世界を求めていた気象流体力学の世

界にも、こういったカオス理論やフラクタルの概念等のいかがわしいパラダイムがどんどん導入されつつあるこのごろの気象界です。今まで格子点の網目からふるい落とされていた鬼の子たちが夜な夜なうごめき出し、何か急におもしろくなってきました。(操野)